

令和6年度 桃谷中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようになる。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るために、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各國公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各國公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和6年度 桃谷中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3年	学校	93	53	46	5.6	16.9
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	96	61.2	52.5	45.5	50.0	53.3	7.4	4.8	17.1	5.3	8.1
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	53.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.3	6.5
9月3日	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.4	53.6	5.3	5.0	14.8	5.0	6.9
2年	学校	111	60.9	50.9	47.7	49.7	51.7	11.4	5.1	9.7	6.6	8.4
	大阪市	—	66.1	52.6	51.4	49.5	54.6	8.4	4.4	8.2	6.1	7.0
1月9日	大阪府	—	65.5	52.4	50.7	47.2	54.0	9.3	5.0	9.5	7.4	7.9
1年	学校	89	57.8	50.1	42.3	51.8	55.6	8.2	6.1	9.5	5.5	7.0
	大阪市	—	59.0	53.7	50.5	55.6	62.1	8.3	5.5	7.4	5.1	4.9
1月9日	大阪府	—	58.5	—	49.8	—	61.5	9.4	—	8.8	—	5.8

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はB問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】		聞くこと 【リスニング】		書くこと 【ライティング】		話すこと 【スピーキング】	
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	91	100.1	—	104.4	—	139.5	—	104.6	—
	大阪市	—	105.7	—	104.6	—	149.6	—	102.1	—

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトルラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
			131								
2年 男 子	学校	32.70	28.41	43.08	52.28	82.21	—	7.72	190.21	20.74	43.63
	大阪市	28.38	26.42	42.74	51.50	79.76	—	8.08	194.64	19.84	41.10
	全国	28.95	25.94	44.47	51.51	78.98	—	7.99	197.18	20.57	41.86
2年 女 子	学校	25.84	22.43	44.26	46.83	50.76	—	8.93	179.00	12.52	50.69
	大阪市	22.99	22.21	45.64	45.86	52.98	—	9.01	167.01	12.04	47.51
	全国	23.18	21.56	46.47	45.65	50.67	—	8.96	166.32	12.40	47.37

令和6年度 桃谷中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○全国学力・学習状況調査結果

【成果と課題】

<国語>

平均正答率は53%で、大阪市平均よりも3ポイント下回った。ただ、「情報の扱い方に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」の2つの領域では大阪市平均を上回っている。

<数学>

平均正答率は46%で、大阪市平均よりも5ポイント下回った。また、無回答率も大阪市平均よりも4.4ポイント高かった。領域別では、「図形」の正答率が低かった。

【今後に向けて】

<国語>

朝学活や授業において適宜復習の時間を設け、基礎的学力の定着を図りたい。また、初見の文章を読み取つたり、ある程度まとった文章を書いたりする学習活動を行い、読解力・文章力の向上を図りたい。

<数学>

無回答率を減らすために、問題を的確に読み取り、求められている解を粘り強く解きすすめる姿勢を育てていきたい。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

【成果】

<国語>

平均点は大阪府(65.2点)と比較して4.0点下回り、61.2点であった。学習指導要領の内容における結果は「情報の扱い方に関する事項」でのみ大阪府平均を上回ったが、それ以外の領域では大きいもので「読むこと」の2.2点、小さいものでも「書くこと」の0.4点下回る結果であった。しかし、問題形式においては、すべての形式で大阪府を下回っていた前年度実施の中2チャレンジテストと比較すると、「記述式」で僅かながら(0.1点)上回った。

<社会>

平均点は大阪府(50.4点)と比較して2.1点上回り52.5点となった。「学習指導要領の領域」、「評価の観点」、「問題形式」のすべての項目において大阪府の平均点を上回ることができた。また、無回答率は大阪府(5%)に対して4.8%と下回ることができた。

<数学>

平均点は大阪府(49.1点)と比較して45.5点となり、3.6点下回った。これは2024年1月に実施した中2チャレンジテストにおいて大阪府(52.2点)と比較して45.4点となり、6.8点低かったことや、2024年4月に実施した全国学力・学習状況調査結果において、全国平均より5ポイント低かったことを鑑みると、徐々に学力が向上していることが認められる。

<理科>

平均点は大阪府(52.4点)と比較して2.4点下回り、50.0点であった。学習指導要領の領域における数値はどれをみても全体的に低い傾向がみられ、「エネルギー」分野では、大阪府平均が38.2点に対して0.3点低い37.9点、「粒子」分野では、大阪府平均が51.6点に対して3.8点低い47.7点、「生命」分野では、大阪府平均が63.5点に対して2.4点低い61.1点、「地球」分野では、大阪府平均が53.5点に対して1.8点低い51.7点という結果であった。

<英語>

平均点は大阪府(53.6点)と比較して53.3点となり0.3点下回った。前年度実施の中2のチャレンジテストの平均点は大阪府の平均点(57.1点)よりも5.4点低い51.7点であったことを考慮すると、向上していることがわかる。学習指導要領の領域の「聞くこと」においては、大阪府平均点に対して0.2点高い結果であった。

【課題】

<国語>

思考力、判断力、表現力等の各項目において、「読むこと」の得点率の差が-7.4%と特に大きくなっていることから、初見の文章から必要な情報を読み取る力や指示する語句が指示する内容を把握したりする力を伸ばす必要があることがわかる。

<社会>

各問いごとで考えると、大阪府の平均点を上回っていない問題があり、地理の分野の資料問題が苦手であることが考えられる。

<数学>

無回答率が大阪府平均より著しく高い問題が、問題の難易度に依らず数問存在する。粘り強く数学に取り組む力を身に着けさせる必要がある。

<理科>

各設問の問い合わせに注目すると、「節足動物の体の外側をおおうかたい殻のようなつくりの名前を書く」問については、大阪府の正答率が65.1%に対して14.1%低い51.0%である。それに対して、「節足動物に分類される動物をすべて選ぶ」問題では、大阪府の正答率が72.8%に対して7.4%高い80.2%である。その他、いくつか注目すべき点があるが、同じ系統の分野内においても大幅な点数の差がみられることから総合的にすべての分野において知識が不足しているかというとそうとも言い切れない。生徒の課題は、まず「問題の質問内容を理解しているかどうか」と「学習が指導要領に基づいた知識の定着」の2点が大きく考えられる点分析する。

<英語>

30点以下の生徒が24人(25%)となり、目標として20パーセント以下に抑えたい。英語に苦手意識を持っている生徒にも取り組みやすい内容も入れながら授業をおこない、「わからない」という生徒を減らす授業の工夫をする必要がある。また、補助プリントや小テストを活用し、基礎的な知識、技能の定着を図る必要がある。

【今後に向けて】

<国語>

授業の帶活動や朝学活の時間などを活用し、経常的に初見の文章に触れ、要約したり読み取つたりする機会を設けるとともに、ある程度まとった文章を試写したり作文したりしながら「読むこと」「書くこと」の力を引き続き粘り強く育成していく必要がある。

<社会>

歴史・地理の基本的な語句の復習を行うこと、資料を扱った演習の時間が必要である。今までと同じように授業の中で思考する時間を設けることは継続していくなければならない。

<数学>

前項目を達成するためには、日常頃から学習に対する態度を指導する必要がある。日常生活を学習以外の部分に重きを置いている生徒が数十名おり、25点～29点の層の生徒と多く合致する。基礎的な数学力を定着するために、繰り返し演習を行つたり、粘り強く数学に取り組む態度を養っていく必要がある。

<理科>

今回のチャレンジテストの結果における各設問の最後の問題において、「コイルCに直流電流を流したときの、コイルDにつないだ検流計の針が右にふれたあと」の針のようすを選ぶ問題では、大阪府の正答率が21.4%に対して3.6%高い25.0%である。また、「ダニエル電池のしくみについて書かれた文章と図の記号に入る化学式をそれぞれ書く」問題においては、大阪府の正答率が26.4%に対して9.0%高い35.4%である。生徒には問題に意欲的に取り組む姿勢という点では、府内においても平均的であり、解くことができる問題に対しては、きちんと対応することができるはずである。それらをふまえ、「問題の質問内容を理解しているかどうか」という点においては、「きちんと問題に慣れさせること」が今後の必要であると考えられる。チャレンジテストでは、問題文から質問内容をきちんと理解し、回答することが求められる。生徒の読解力向上が必要であるという点において、今後展開していく授業の中で読解力を意識した授業を展開することを実践していく。それらを定期的に試験を通じて確認していく必要がある。また、「学習指導要領に基づいた知識の定着」では、生徒に合った授業スタイルを展開していく。主に対話的で主体的、深い学びが知識定着には良いと考えられるが、それ以上にインパクトの強い授業を展開していくことで生徒の記憶に残る授業展開が必要であると考える。教師と生徒双方が楽しく授業を進める中に、確かな学力向上につながる展開を、今後考え進めていく必要がある。

<英語>

選択式の問題の正答率に関しては、記述式に比べ大きく正答率が下がる。普段、発表の原稿を書かせたり、自分の意見を書かせたりする授業はおこなってきたが、教科書や補助教材の例文を参考に書かせることが多くなったため、自力で書くことが苦手な生徒が多い。今後は、問題を多く解かせ、基本の文法や語彙を用いて書くことに慣れさせていく必要がある。

令和6年度 桃谷中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○中学生チャレンジテスト(1年生・2年生)・中学生チャレンジテストplus

【成果】1年生

<国語>平均正答率は57.8%で大阪府と比較して、0.7ポイント低かった。観点別では大阪市と比較して「知識・技能」では1.0ポイント下回り、「思考・判断・表現」では0.1ポイント下回った。

<社会>平均正答率は50.1%で、大阪市と比較して、3.6ポイント低かった。観点別では、大阪市と比較して「知識・技能」において4.4ポイント下回り、「思考・判断・表現」において2.0ポイント下回った。

<数学>平均正答率が42.3%で、大阪府と比較して7.5ポイント低かった。観点別では、大阪府と比較して、「知識・技能」において8.2ポイント下回り、「思考・判断・表現」において5.1ポイント下回った。

<理科>、平均正答率は、大阪市と較べて3.8ポイント下回った。観点別では、大阪市と比較して「知識・技能」において4.0ポイント下回り、「思考・判断・表現」において3.2ポイント下回った。

<英語>平均正答率は大阪府と比較して、5.9ポイント低かった。設問別に分析すると、「聞くこと」の項目よりも、「読むこと」「書くこと」の項目のポイントが低い。これは、基本的な単語や文法項目を反復して習得していないことを意味する。基礎的な学習習慣の確立や、基本的な単語や文法項目の習得が必要である。

【課題】1年生

<国語>「書くこと」に関して「資料から読み取った情報を根拠として示しながら、自分の考えを伝えることができる」は大阪府と比較し、6.8ポイント下回っている。このことから、情報を正確に読み取る、自分の考えを伝えることが課題である。

<社会>カテゴリー別に正答率を見てみると、大阪市の平均に対して「基礎」では4.9ポイント、「活用」では0.5ポイントと下回っている。また「知識・技能」の観点でも正答率が大阪市よりも下回っていることから、基礎問題、知識・技能を高めていくことが課題である。

<数学>領域「数と式」において、正答率は10.8ポイント下回っている。数字、文字に関する四則計算が弱いため、知識・技能を高めることが課題である。

<理科>カテゴリー別に正答率を見てみると、大阪市の平均に対して「基礎」では2.1ポイント、「活用」では2.1ポイント下回っている。特に「知識・技能」を高めるため、基礎的な学力を身につける必要がある。

【今後に向けて】1年生

<国語>資料から正確な情報を読みとらるために、定期的に資料を活用していきたい。また、自分の考えを書き、伝える場面も確保していきたい。

<社会>教科書を読む重要性や課題の取り組み方を丁寧に伝え、小テストや課題にしっかりと取り組むことで、基礎を身につけられるようにする。また、基礎を定着させて「分かる」ということを増やしていくことと興味・関心を持たせることで、さらに学習しようとする意欲を高めていく。

生徒の質問に答えることにより学習意欲の向上につなげたい。

<理科>問題を読み込み、知識を正確に伝える練習が必要である。特に記述問題に課題が残るので、小テストや宿題などを有効に活用して、基礎学力の定着をはかる。

<英語>基本的な単語や文法項目の習得が必要である。そのために、単語テストや文法項目の反復学習を行い、基礎基本の定着をはかっていく。

【成果】2年生

<国語>平均正答率は大阪府(65.5点)と比較して、4.6点下回る60.9点であった。学習指導要領の内容における結果は「情報の扱い方に関する事項」でのみ府と同等の数値であったが、その他はマイナス0.6点からマイナス1.7点と下回る結果となった。最も差が大きかった項目は「読むこと」であった。しかし、設問別集計では「仮名遣いを直して書く」「主語として適切なものを選択する」「『愉快』の読み方」などが府の正答率を上回っている。

<社会>平均正答率は大阪府(52.4点)と比較して、1.5点下回る50.9点であった。評価の観点では「思考・判断・表現」で大阪市より2.0ポイント下回ったが、前年度実施の大阪市チャレンジテストplusにおいて6.2ポイント下回っていたのを鑑みて、成長している点である。問題形式では短答式が大阪市より0.4点上回った。

<数学>平均正答率は大阪府(50.7点)と比較して、3.0点下回る47.7点であった。図形の問題やグラフの問題など、視覚的に読み取ったり考察したりする問題は府平均より上回った。他にも府平均よりほんの少しだけ下回る項目が何点か見られた。

<理科>平均正答率は大阪府(47.2点)と比較して、2.5点上回る49.7点であった。前年度実施の大阪市チャレンジテストplusにおいて0.9ポイント下回っていたのを鑑みて、大きく成長した。基礎的な反復練習が効果を奏したと思われる。

<英語>平均正答率は大阪府(54.0点)と比較して、2.3点下回る51.7点であった。昨年度は3.6点下回っていたので、成長がうかがえる。一つの要因は平均無回答率が不平均と大差なく、出題に対して答える意思が見受けられる。

【課題】2年生

<国語>課題としては、漢字の書き問題に対する無答率の高さが挙げられる。日常的に漢字プリントや漢字小テストを実施し、漢字力の定着を図っているが成果につながっていない実態が浮かび上がった。また、点数の分布として中間層が少ないこともあり、全体的な基礎の力を養うことも重要である。

<社会>課題としては、地理的分野・歴史的分野とともに「知識・技能」の得点率の低さが挙げられる。点数の分布としては中間層が少ないと、85点以上の層も大阪市と比べて少ないので、基礎学力の定着が課題である。

<数学>課題としては、問題番号1の(1)など、基本的な問題の正答率が府平均に比べて低く、基礎学力が極端に低い生徒が数人いることである。

<理科>課題としては、記述式の問題が大阪府平均(2.7点)と同点だったため上回るために、思考的な問題を学習する必要がある。

<英語>課題としては、中間層の平均が低く各自の正当数を2問ほど増加させるための基礎学習が必要である。

【今後に向けて】2年生

<国語>漢字学習の方法・評価の変更や、自分の手で字を書く機会を教科外でも連携して設ける必要がある。

<社会>小テストなどを実施して、基礎学力の定着を図る。また新聞記事などを用いて、今まで学んできだことを活用する機会を設けて、学習意欲を高めていきたい。

<数学>個別指導や問題演習をすることで低学力層の強化が必要である。基本的な式の計算のルールを定着させ、底上げを図りたい。

<理科>毎時間行っていた基礎的な反復練習はもとより、記述式の問題演習を行い、思考的な問題を取り組んでいきたい。

<英語>課題としては、読解力が身についているが答案としての表現力が未熟であり、今後はライティングなどを重点的に練習する必要がある。

令和6年度 桃谷中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

○大阪市英語力調査(GTEC)

【成果】CEFRA1レベル相当の割合が51.6%(前年度65.4%)であった。前年度より大きく下回る結果となった。ライティングの得点は他の3技能より高く、個人やグループワークで多くプレゼンテーションをおこなった成果であると思われる。

【課題】内容理解の問題は正答率が比較的高かった一方、文法的な内容に対しての問題の正答率が低かった。今後は問題をたくさん解かせて定着していく必要がある。

【今後に向けて】C-NETの活用や、ペアワークでの会話の練習、プレゼンテーションの取り組みを引き続きおこない、練習問題を多く解かせるなどして基礎の定着を図っていく。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

【成果】

体力テストの9種目を全国・大阪市と比較して、男子は6種目女子は6種目を合計点が上回った。

総合点は男子は43.63(全国41.86、大阪市41.10)、女子は50.69(全国47.37、大阪市47.51)と

男女ともに全国・大阪市の平均を上回った。

【課題】

男女ともに長座体前屈の記録は僅かながら全国平均を下回った。

運動習慣調査の「運動が好き」という項目の「好き」の回答は全国・大阪市の平均を大幅に上回ったが、「やや好き」という回答は男女ともに下回った。

【今後に向けて】

特に「運動が好き」という項目に関しては、授業の工夫によって向上できるので、わかりやすい授業・取り組みやすい雰囲気を作り、運動が好きな生徒を増やしたい。

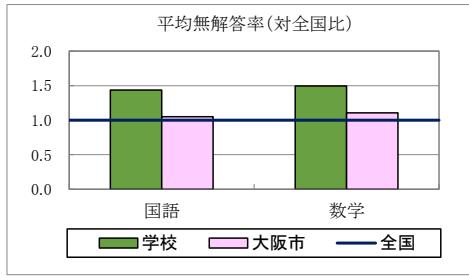
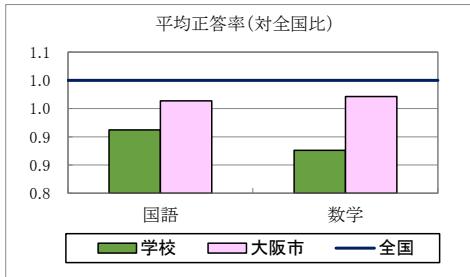
令和6年度 桃谷中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【全 体】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	53	46
大阪市	56	51
全国	58.1	52.5

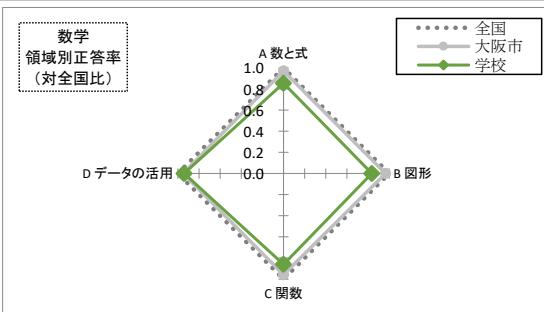
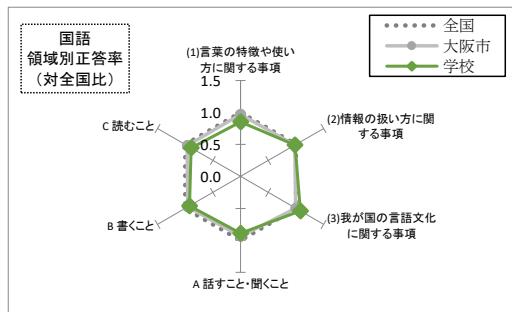
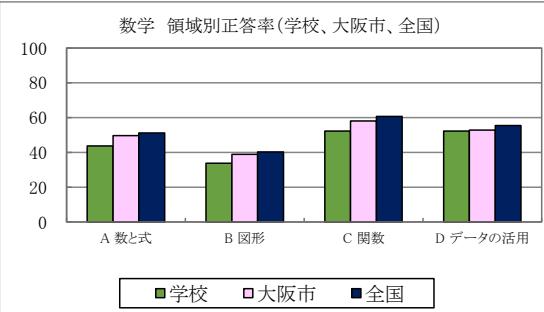
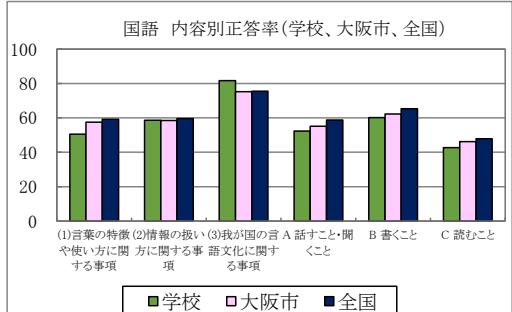
平均無解答率(%)	
国語	数学
5.6	16.9
4.1	12.5
3.9	11.3



【国 語】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	3	50.5	57.5	59.2
(2)情報の扱い方にに関する事項	2	58.6	58.5	59.6
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	81.7	75.3	75.6
A 話すこと・聞くこと	3	52.3	55.2	58.8
B 書くこと	2	60.2	62.2	65.3
C 読むこと	4	42.7	46.2	47.9

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	43.7	49.6	51.1
B 図形	3	33.7	38.9	40.3
C 関数	4	52.2	58.1	60.7
D データの活用	4	52.2	52.8	55.5



令和6年度 桃谷中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

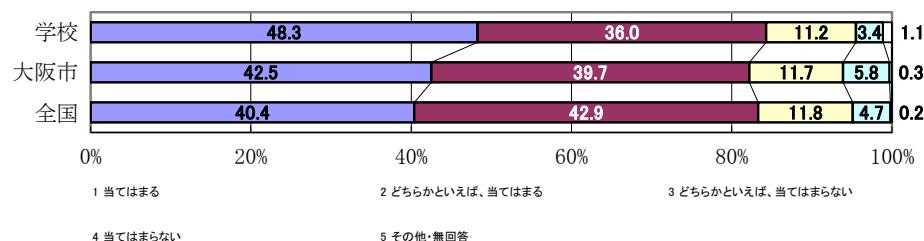
生徒質問より

■ 1 ■ 2 □ 3 □ 4 □ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8

質問番号
質問事項

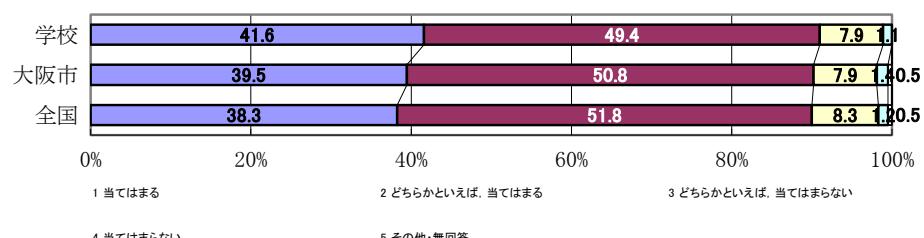
9

自分には、よいところがあると思いますか



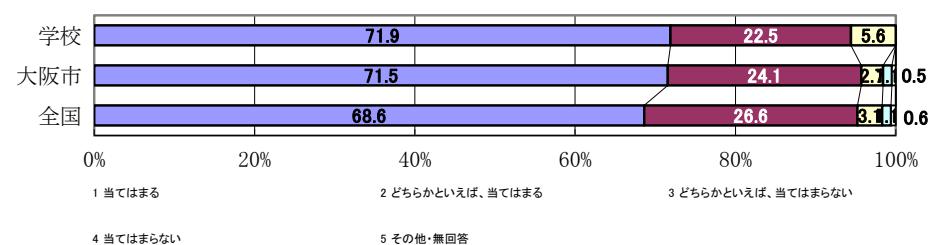
12

人が困っているときは、進んで助けていますか



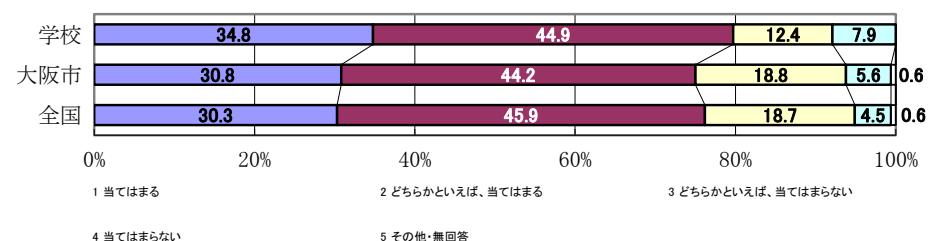
15

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



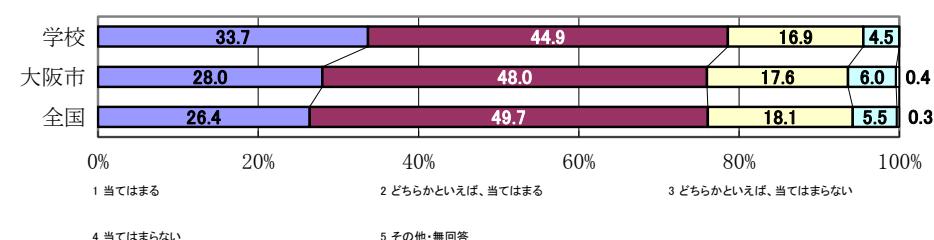
17

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



25

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



令和6年度 桃谷中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

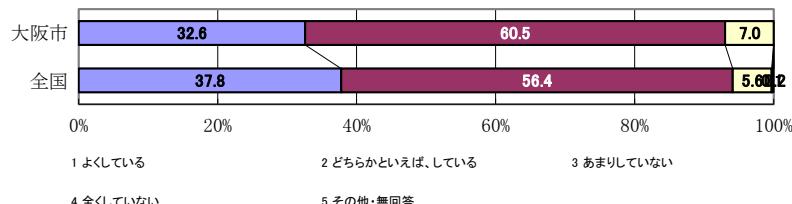
■ 1 ■ 2 □ 3 □ 4 □ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8 ■ 9 ■ 10

質問番号
質問事項

15

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

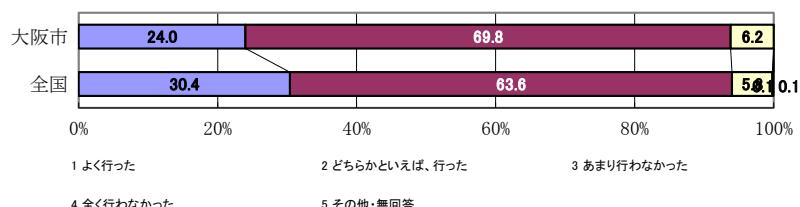
学校 「よくしている」を選択



31

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

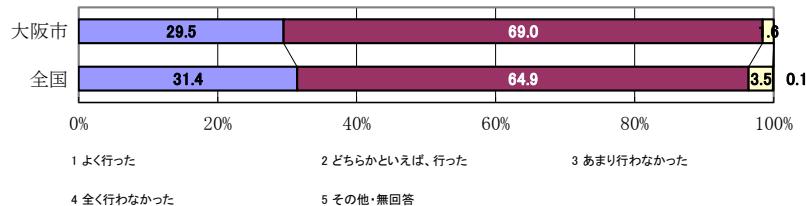
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



32

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか

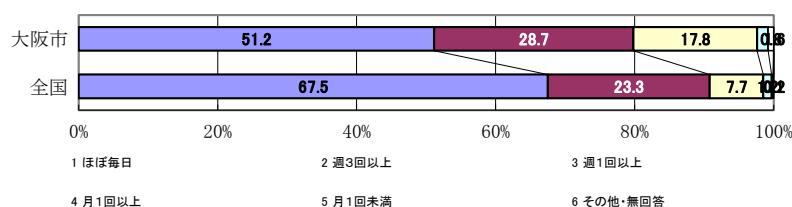
学校 「よく行った」を選択



60

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「週3回以上」を選択



73

調査対象学年の生徒に対して、前年度に、職場体験活動を何日程度行いましたか

学校 「5日以上(分散して実施)」を選択

